

熊井の森通信

発行/熊井の森トラスト基金

〒350-0314 埼玉県比企郡鳩山町
楓ヶ丘2-2-1かわせみハウス
NPO法人はとやま環境フォーラム
メール kawasemi3001@gmail.com

☎049-227-3001 FAX 049-227-3068 ホームページ <https://hatoyama.info/>

12月・1月の活動予定

■熊井の森トラスト1・2号地で下草刈り 12月7日

12月7日（日）午前9時、トラスト1号地の野鳥観察舎前の空き地に集合してください。埼玉県みどりの活動支援補助金事業として、トラスト1・2号地および隣接する山林（町有地）の下草刈りを行います。

野鳥の営巣時期が終わり、久々の雑木林での下草刈りですが、今度は“クマ騒ぎ”です。当団体の対応としては、埼玉県農林部森づくり課からの注意喚起内容を踏まえ、山に入るときはクマ鈴やラジオなどで音を出しながら、クマよけスプレーを携帯し、朝夕のクマの活発な時間帯は避け、昼間の明るい時に、複数人で周りに注意しながらできるだけ短時間で作業することで安全を図りたいと思います。

■ウッドデッキ土台設置のため再度測量 12月14日

12月14日（日）午前10時より、現地集合で改めて測量をします。11月11日に一度測量をしましたが、ウッドデッキの広さが、樹木の位置との関係で変わったことに伴う2度目の測量です。興味のある方はご参集ください。

■ビオトープづくりで赤外線カメラ設置 12月15日



12月15日（月）午前9時、現地集合。これまでの作業で、とりあえず、ビオトープ1号地で水が張った冬水ビオトープが出来上がりました。あとはグレードアップ作業ですが、今後、どのような生き物がやって来るかを観察するために、赤外線カメラを設置します。興味のある方はお越しください。一緒に設置しましょう。

■フォーラム忘年会で映画「誰かの住処」上映



12月21日（日）午後3時30分から午後6時まで、かわせみハウスで「フォーラム忘年会」を開催します。会員や活動参加者や地元の方々が一堂に会して親睦を深める集まりです。今年はイベントものが立て込んでいて、大忙しの1年でしたが、来年につながることを期待しましょう。仲間も増えてきました。当初のツリーハウスは難しくなりましたが、代りに、ウッドデッキ作りで盛り上がり、来年3月の完成を目指して奮闘中です。石場沼の谷津の休耕田を借りてビオトープづくりに着手し、来年にはハト麦づくりも始めます。

忘年会では、共同菜園仲間である隈本由夏さん（ポスター写真左の女性）が監督して、熊井の森や多世代交流センターなど鳩山町で撮影した自主制作映画「誰かの住処」も上映します。若者たちにとっての里山とは、がテーマらしい。ご期待ください。会費400円。アルコール類は各自持ち寄りで差入れ大歓迎です。

12月・1月 活動スケジュール

12月

7日（日）午前8時～ 資源回収
〃 午前9時～ トラスト1・2号地草刈り
14日（日）午前10時～ ウッドデッキ作り
15日（月）午前9時～ ビオトープ作業
16日（火）午前10時～ ウッドデッキ作り 予備日
21日（日）午前9時半～ 理事会
〃 午後1時半～ 観察会
〃 午後3時半～ 忘年会

1月

4日（日）午前8時～ 資源回収
18日（日）午前9時半～ 理事会
〃 午後1時半～ 観察会
〃 午後4時～ 新年会

11月の活動

■はとやま祭・文化祭に参加 11月2, 3日



▲熊井の森の自然を体感するジオラマのテント



▲美味しいハト麦パンケーキだよ



▲鳩山町のマスコットキャラクターと小川町長

11月3日開催のはとやま祭りに、昨年は環境フォーラムの活動紹介パネルや熊井の森の動植物の写真、農機具などを展示していましたが、今年は、熊井の森の植物などで、森を感じてもらうオブジェを作ろうと声があがりました。テントの周りには、大木が並ぶカラープリントを貼りめぐらせて、少し薄暗い雰囲気にして、森らしい雰囲気にしよう、と。11月2日にモミの木やカラスウリ、竹、柿、草花、ススキなどを集め、当日朝、男性軍が開場時間すぐに運び込み、急いで準備をしました。段取りよく進めていき、なかなか良い感じにできあがりました。小川町長にも中を見ていただきました。女性軍は横に並ぶテントで、今年各イベントで大活躍の『ハトムギ粉入りパンケーキ&ドリンク』のお店を開きました。会員3名と友達1名、子供2名。広い会場なので、ハトムギの香ばしい香りが広がってしまうかもと言いながら、今日の目標200枚に挑戦しました。

最初はぼつぼつの売り上げだったので、今日はちょっと人出が少ないなあと、ちょっと地味な店かなあと思っていたのですが「美味しいかったから、また来ました」とのリピーターの声に、がぜんやる気が出てきました。子

どもたちのかわいい呼び込み声も響き、他店への声掛けなどして、だんだん賑わってきました。

まつり終わり頃は、おみやげに買って帰るという方が次々来られたのは、驚きました。結局、目標には届きませんでしたが、ハトムギの香りが届けられ、交流も深まり、活動も見ていただき、良き一日でした。

■閑ちゃんファームで芋掘り 11月8日(土日)

有機栽培家の閑野さんの畠で、安納芋掘りイベントを開きました。閑野さんの掘り方や道具の安全な使い方などの丁寧な説明の後、皆で掘っていました。参加者の小学生2人が、10個近くついている芋を力合わせて掘る姿は微笑ましく、掘り上げた時には拍手が。昼食は石窯で焼いたピザの美味しさに、皆、感動しました。

■ウッドデッキの測量で提案続出 11月11日

11月11日、現地測量。参加者は4人。全員測量の経験はありません。中途半端な知識ですが意欲は満々、ああだこうだと意見を戦わせながら取り組んでいました。結果、6坪の予定を7坪に拡大することに。ということで、設計図を描き直し、改めて測量をすることになりました。次回測量は12月14日(日)10時 現地集合です。ぜひご参加ください。

■日消連食農部会が熊井の森視察 11月15日

日本消費者連盟は1969年の創立。合成洗剤、医薬品、化粧品、アスベスト、農薬、食品添加物、電磁波など、身の回りにあふれる危険なものを見分け、啓発活動や行政要請などに取り組んでいる全国組織の消費者運動団体です。その中の専門部会のひとつで、学校給食での国産小麦の導入、有機学校給食の推進などに取り組んでいる「食農部会」の方々4名が、熊井の森の視察に来られました。

かわせみハウスで打ち合わせ後、早速、熊井の森へ。熊井の森の貴重なモミの群生林のこと、協生農法パイロット事業の現況、ピザ窯を活用した地元鳩山の味覚体験イベントでは生産者のお話と里山散策を組み合わせ、里山の大切さを知っていただくようにしていること。サシバやキクモなど里山ならではの生きものが見かけられることなどを説明しました。毎月20日発行の日消連「消費者リポート」12月号で視察報告が掲載予定です。

11月の活動報告

■石場沼下休耕地の草刈り 11月24日(月)

午前9時に西福寺前に集合。すでに奥武蔵マウンテンバイク友の会の皆さんに来られていて、草刈り前に、熊井の森の中の散策路の整備をしてきたとのこと。感謝です。地元の方も集まり、お互いの挨拶のあとに、当日の作業の説明をしました。

いつもやっていたい西福寺前の休耕地は、この後、伐根・畝づくりをしてハト麦栽培をする予定であること。別の休耕地はビオトープにする計画があり、そこは環境フォーラム関係の者が草刈りをすること、それに「クマらしき」ものの目撃情報のその後、などを説明しました。

参加者は18人もいて、うまくいけば1時間ぐらいで終

わりそうな感じで始めましたが、案の定、ハンマーナイフという便利な機械を使ったおかげもあり、1時間ほどで草刈りは完了。休憩では、地元の方からお菓子とユズの差し入れがあり、環境フォーラムが用意したハト麦パンケーキも「おいしい、素朴な感じがいい」と好評でした。



▲草刈り前(上) 草刈り後(下)



休憩後、マウンテンバイクの皆さんには、ビオトープ予定地の草刈りと土壌づくりもやっていただきました。おかげで、こちらも作業もはかどり、「これからも、年に1回だけでなく、なにかあったらお手伝いに来ますよ」とのこと。また感謝です。

次回は、草刈りだけでなく、しし鍋パーティーなどのジビエ料理や山の幸を味わう機会を設けて一緒に楽しみたいと思います。

第12回「大人の学校」講演会で、クロテンの哀しい歴史を知る



「ファーロード」（毛皮の道）は、シルクロード（絹の道）に総称される「ティーロード（茶の道）」や「スパイスロード（香料の道）」などと同様に、極東から中国、シベリア、中央アジアへとつながっていて、いにしえの人びとが行き交い、夢とロマンと貴重な物品を運んだ、貿易ルートであったこと。そして、乱獲されたクロテンたちの「死」でもって得られたお金が、清朝（中国）、ロマノフ王朝（ロシア）の財政を支え、鎖国中の江戸幕府も無関係ではなかったこと。さらに、ソ連崩壊、化学繊維の発達と近年の動物愛護の流れまでが語されました。

「クロテンは、クロテンとして生きるために生まれてきた。毛皮になるために生きているのではない。殺されてしまったクロテンも、せめて、大切にされたい。しかし、毛皮は残っているはずなのに、使われていない。地球を半周するほどの、大国と経済を回転させてきた無数のクロテンはどこへ？」（講演より）

講演の後は、ピアニストの望月智子さんと山口さんのクラリネットによるミニ・コンサートがあり、「鈴懸の径」など数曲のすばらしい演奏がありました。

11月16日(日)午後1時半より、地元の鳩山ニュータウン住民自治会が主催し、当団体が協賛した第12回「大人の学校」が開催されました。

講師は、熊井の森のピザ窯づくりにも参加いただいた山口ミルコさん。何冊ものベストセラーや話題作を世に送りだした元編集者で、その後、ガンとの闘病を経て、ロシアのクロテンに出逢ったことから、ロシア極東・シベリアに興味を持ち北方民俗などを取材し、現在に至るライフストーリーはとても興味深いものがありました。

11月の活動報告

■ビオトープ指導で埼玉県が専門家を派遣 11月25日



埼玉県環境部みどり自然課が所管する「みどりの活動支援補助事業交付金」に交付申請し、10月6日付で当団体の事業に対して補助金（254,000円）を頂きました。

申請事業は、「熊井の森谷津田・休耕田ビオトープ事業」です。谷津田の耕作放棄地の一部を冬水田んぼビオトープにすることで、アライグマなどに脅かされない産卵適地の創出と産卵適地の分散を図り、合わせてタコノアシやキクモなどの希少湿性植物やトンボなどの水生昆虫の生息地の創出を図るのが事業の目的です。そして、必要な資材・消耗品として、生物モニタリングのためのトレイルカメラと共に、産卵期のアライグマ対策としての電気柵（農産物の獣害対策としてではなく、環境保全事業のための電気柵）も経費として認められました。

隣接したビオトープ1号地では池の周りの木柵にネットを張るだけですが、ビオトープ2号地では電気柵を設置できることで、その効果の相互比較が可能になります。

ビオトープ1・2号地の周囲にある用水路には、同補助金で購入した枯葉防止ネットを応用した同団体発案オリジナルの「カエル救出装置」を40カ所設置します。

11月25日（火）、視察に来られたビオトープ管理士の竹花裕美子氏と県の担当者・町田茂氏に以上の事業内容を説明。竹花氏は「熊井の森は素晴らしい。もっと多くの人にその魅力を知ってもらいたいですね」と。現地視察後、かわせみハウスに寄っていただき、補足説明とハト麦パンケーキの試食。今後の活動についての貴重なアドバイスをいただきました。

活動後記 ■熊井地区でのクマ目撃情報はこれで2件目。地元猟友会は現場確認をした結果、「なにかの見間違いでないか」とのことでの確認できていませんが、鳩山町はHPで注意を促しています。地名が「熊井」ですが、特にクマがいたという話は地元の方も聞いたことがないとか。獣害対策の根本的解決は里山保全のあり方とも関わり、下草刈りをして緩衝地帯を作り、動物と人との棲み分けをまず図るべきでないでしょうか。獣害はまさに里山ならではの課題です。■「ニーハオ 熊井の森歳時記」は今回も休載します。



森の中へ

自然にふれ、生きものから学ぶ月例散策便り ⑪

指に吸盤のないヒキガエルなどの救出作戦



カエルと言えば緑色で葉っぱや窓、自動販売機なんかに張り付いているアマガエルやシュレーゲルアオガエルをイメージする方が多いと思うのですが、そういったカエルが木や壁に登るのは指先に吸盤があるためです。

ところが熊井の森近辺にいるカエルの中では吸盤があるのは少数派で、ヒキガエル、アカガエルや同じ両生類の希少種のサンショウウオには指に吸盤がないため、垂直の水路の壁を登ることが出来ません。これらの吸盤を持たないカエルたちはアマガエルやシュレーゲルアオガエルに比べ大きく、熊井の森に暮らす生き物たちの重要な餌資源となっており、また害虫などを食べてくれるため、ヒトにとっても有益な生き物です。

しかし、最近は水辺の乾燥化や乾田化、耕作放棄地の増加などで数を減らしています。そこで現在、石場沼の下流の休耕地をお借りし、水辺ビオトープを作りカエルやサンショウウオの産卵場所になつたら良いと考え作業をさせていただいている。その一環として、森と水辺（田んぼやビオトープ）の途中にある水路に落ちたカエルやサンショウウオが伝って登れるような脱出装置（写真：黒い筒状のもの）をカエルやサンショウウオの産卵に関わる1月～3月の期間、水路の機能を邪魔しない形で設置できないものかと考えています。（愛場 結偉）

定例観察会 のご案内

開催日：毎月第3日曜日

集合場所：かわせみハウス前

集合時間：午後1時半
(終わりは午後3時ごろ)

11月からは午後の実施に戻りました！

興味のある方はどうぞお気軽にお越しください。鳩山ニュータウン内かわせみハウス前に8時半に待ち合せて、相乗りで熊井の森に向かい、帰りもご一緒できます。

はとやま環境フォーラムHP→

